

# 物価高はなぜ続くのか

4月の慌ただしさが一段落し、新しい環境にも慣れ始める時期です。また地域の行事や活動が本格的に動き出す季節となりました。どこかで行き会いましたら気軽に声を掛けください。

さて、現在、日本中で物価高騰が大きな関心事となっています。日々の買い物などで商品の値上がりを実感する場面が増えているのではないのでしょうか。私も、スーパーで値段を見比べたり、思わず手に取った商品を棚に戻したりすることが増えました。

今回の物価高は、食料品やガソリン代など生活必需品ほど値上がりが目立ち、家計への負担が大きくなっているように感じます。一般的に物価が上昇する場面では、経済の好循環が生まれ、お金の巡りが良くなっているものと言われています。しかし、現在、景気が急に良くなったようにも、賃金が大幅に増えたようにも感じられません。この実感のズレこそ、現在の物価高の特徴です。

なぜこのような物価高が続いているのでしょうか。今回の物価高は、需要が増えたことで起きたものではなく、原材料やエネルギー価格の高騰が要因です。原油や小麦などの国際価格が上

がり、調達コストが膨らんだことで、企業は値上げを抑えられなくなりました。加えて、深刻な人手不足により、人材確保のために賃金を引き上げる企業が増え、その分を商品価格に反映するケースもあります。こうした複数の要因が重なり、物価高は構造的なものになりつつあります。一方で、長く続いた「値上げはしない」という空気が変わり、適正な価格設定に踏み出す企業や賃金を引き上げる企業も増えてきました。これは、日本経済が低物価・低賃金・低成長の時代から抜け出し、持続的な成長へ向かう転換点とも言えます。と何ごとも前向きに捉えたいものです。

市では、市民生活と市内事業者の双方を支えるため、これまで効果のあった「物価高騰家計応援クーポン券」の発行を行うこととしました。準備が整い次第、広報紙やホームページなどでお知らせいたしますので、ぜひご活用ください。



匝瑳市長 宮内康幸

## 匝瑳探訪 幻の寺跡

吉田地区江川集落の高台の見道寺という場所に小堂と墓地があります。

江戸時代、吉田村には、日蓮宗・顕妙寺、同・円充寺、天台宗・蓮城寺、同・妙覚寺の4カ寺が存在したほか、1700年ごろには真言宗・米倉村西光寺の檀家もあったようです。

1700年ごろ、吉田村の20数人が真言宗の寺(庵)を建てたものの、村内の他の寺院(妙覚寺)から寺社奉行に訴えられる騒動が起きました。

1777(安永6)年妙覚寺の僧が訴えた内容は、(妙覚寺の)檀家だった



見道寺跡に残る石造物(写真右端の墓石が開山塔)

20数軒が見道寺に移ったため、もともと貧窮の寺だった妙覚寺が今後成り立っていかぬこと、妙覚寺がもともと行ってきた村の熊野神社などの祭礼もできなくなってしまうことなどでした。訴えから1カ月ほどした同年3月、妙覚寺側と村民側の代表が江戸に向き対論することになりました。

江戸時代、民衆の戸籍が寺院によって管理される寺請制度や菩提寺の檀家として葬儀や墓地の管理など寺と関わりを持つ檀家制度がありました。

裁許の結果は、庵と位牌堂が取り壊され「見道」の地名のみ残すことになり「幻の寺跡」となってしまいました。そして寺跡の墓地は、今後天台宗・真言宗・日蓮宗檀徒の共同利用とすること、神社の神事、祭礼などは従来通り妙覚寺が務めることなど同寺の主張がほぼ認められたようです。

真言宗の寺院を建てたいという吉田村びとたちの願いはかきませんでした。その背景には1630年代以降、幕府が各宗派に新しい寺院を建てることを禁止したことがあったのかも知れません。

寺跡に残る石造物などから1700年代に吉田村と近隣7カ村53人の真言宗信者による「寒念仏」があったことなどが知られ、墓地整理の際にも幻の寺・見道寺を創建した僧の墓も失われることなく残されています。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課 広報広聴班 ☎73・0080

# 文芸コーナー

## 短歌

依知川 雅一 推薦

百二歳一人暮らしを歌に詠む

入院しても暮らし楽しと

鈴木 志子

真新しき制服に会う朝の道

遠き日浮かぶ四月の紺は

宇野とし子

額縁のごと窓遠く光る海

わが故郷の懐かしき眺め

石井 洋子

相談を受けてる我が励まされ

今日はいい日よ明日もいい日に

内藤喜代美

まだ遠い燃料デブリ取り出せず

はや十五年福島の春

金澤 俊

花曇り祭り囃子に山桜

幟はためく葦茅神社

高橋百合子

新品の靴と踏み出す学舎は

見知らぬ土地も笑顔絶やさず

大木 洋一

石田 健治 推薦

我が孫は大志を抱き異国の地

君を待つてる学びと出逢い

林 ツヤ子

学舎にけいこう灯の光もれ

笑い声する肌寒の午後

伊橋 裕子

## 力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課 広報広聴班  
〒289-2198 匝瑳市八日市場 八793番地2  
☎73・0080 FAX72・1114

## 俳句

椿 和枝 推薦

春更けて髭も白髪八十路かな

仏壇に塵うつすらと鳥帰る

那須 恒雄

グラウンドに大小の声風光る

佐々木之子

入学の児童迎へし金次郎

椎名 晴江

駄菓子屋に大人立寄る春の暮れ

川口 賢一

病院の玄関までも花筵

鈴木 志子

坂うえの声にこたふる花の雨

山崎智恵子

石田 健治 推薦

梅一輪友が逝く喜寿食らう酒

魂の時空を超える旅路かな

熱田 和

## 川柳

勝又 康之 推薦

亡き父の思い出深き朝の露

父の日はわがまま許す今日のみぞ

春日 政彦

お父さん笑顔で分かる思いやり

栗島すみ子ファンの父が子にすみ子

土屋 秀雄

父の日は遺影の前で昼ビール

父の日に一緒に散歩感謝する

林 長三郎

物作り器用だったねお父さん

渡部すい子

石田 健治 推薦

午後からは西窓際でひと眠り

米高値長者番付変わるかも

佐藤 三久

## 地域おこし協力隊通信

第14回



今月の担当は小林理沙隊員。東京都出身。大学卒業後、インターネットサービス企業で約10年、ネット通販や携帯電話事業に携わり、営業・マーケティング支援や採用業務を経験。趣味は旅と歌。



### 匝瑳で紡ぐ、人・暮らし・文化

昨年12月に匝瑳市へ移住し、活動を始めて4カ月余りがたちました。豊かな自然や温かな人のつながり、地域に息づく日々の営みに触れながら、「このまちに来てよかった」と感じる瞬間に、日々恵まれています。

春を迎え、桜が咲き、田んぼには水が入り、お米づくりの準備が始まりました。畑では植え付け作業が始まり、みそづくりやしょうゆ絞りなど、季節とともにある手しごとにも関わらせて

いただいています。こうした営みの一つ一つに人の手で紡がれてきた暮らしの知恵やこの土地ならではの豊かさを感じています。また、1月から3月に市内のブックカフェで実施した「Lisa's Cafe & Bar」では延べ242名の人と交流し、もともと地域にある魅力があらためて見出され、人とのつながりの中で新たな価値や可能性へと広がっていくことを実感しています。

今後は、こうした縁を大切に紡ぎな

がら、匝瑳の人・暮らし・文化の魅力を国内外に発信し、観光や宿泊などを通じて新たなつながりが生まれる場づくりに挑戦していきたいと思います。



Lisa's Cafe & Barの様子